

# 農業

令和2年12月号  
会誌 No. 1671



## 目次

### 巻頭言

担い手育成と地域農業……………伊藤 義夫 3

### 論壇

心置きなく食を楽しむために……………大谷 敏郎 4

### 農事功績者表彰

令和2年度農事功績者表彰事業について……………吉田 岳志 6  
総裁秋篠宮皇嗣殿下のお言葉

### 農事功績者座談会

かぶせ茶の大規模経営や GAP の導入で地域の茶産業を守る…大野 博司 9  
現地指導者のコメント……………丹羽 努 15  
意見交換 …………… 17

### 表彰農家訪問

シクラメンを主軸とした鉢物生産・出荷体制の確立……………腰岡 政二 25  
—吉原一成氏を栃木県日光市に訪ねて—

### 研究の最前線

日本の「シャインマスカット」に対する  
海外の消費者・実需者の評価……………ルハタイオパット プウォンケオ 31

### 農業・農村の現場から

新たなバレイショ産地の確立を目指して……………高田 宏樹 38  
—鉾山とワインの町の挑戦—

## 世界の農業は今

タンザニアにおける食糧増産を目的とした水利用の効率化……廣瀬千佳子 44

## 私の経営と志

農業の価値を考え直す……………小田 哲也 50  
—安全・安心な農業生産—

## 統計情報

2020年農林業センサス結果の概要(概数値)(令和2年2月1日現在)…… 52

## 農政情報

令和2年度(第59回)農林水産祭天皇杯等受賞者…………… 54

大日本農会だより…………… 55

令和2年度農業技術功労者表彰…………… 55

編集部から…………… 60

## ミニ情報

ブドウの国・地域別輸出実績(2019年)…………… 37

農業経営統計調査 令和元年産原料用ばれいしょ生産費…………… 43

『農業』年間総目次…………… 56

### 表紙写真説明

### イチゴ「とちおとめ」のパック詰めの様子(栃木県真岡市)

栃木県は全国一のイチゴの産地です。中でもJAはが野は2020年産(10月～翌6月)の生産量が約7,758トン、約91億8,300万円を売り上げる県内一の産地になっています。

JAはが野管内にはパッケージセンターが4施設あります(写真は二宮パッケージセンター)。生産者のパック詰め負担軽減のため、パッケージセンターでは生産者からコンテナでイチゴの出荷を受け、選果員が一つ一つ目視で品質を確かめ、規格に沿って手早く選果・パック詰めをしています。

今年は長雨や高温による生育への影響が懸念されましたが、生産者の懸命な栽培により今年も例年並みに出荷されています。

主な栽培品種は、甘さと酸味のバランスが絶妙な「とちおとめ」、大粒でジューシーさと甘みの強さをもつ「スカイベリー」、昨年から試験販売を行い今年正式に名前が決まった期待の新品種「とちあいか」、夏秋イチゴの「なつおとめ」です。

JAはが野では積極的な販売戦略による生産者手取りアップのため2017年には営農部に新たに販売営業グループを立ち上げました。定期的に出荷規格を周知する目ざろえ会を開催するなど、安全・安心な商品の出荷のためJA・生産者が一体となって取り組んでいます。

イチゴの本格出荷は11月中旬から翌年5月頃まで続きます。

(写真及び文：はが野農業協同組合 総合企画部 総務(広報) 高橋成美)